

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立錦小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	54人	算数	54人	理科	54人
第5学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

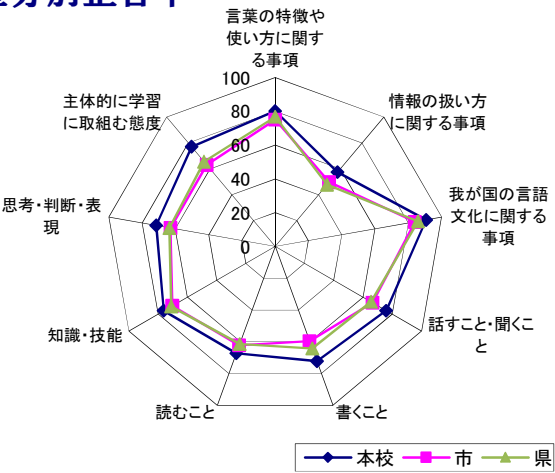
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立錦小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.2	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	57.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	90.7	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	75.9	66.5	65.5
	書くこと	72.2	59.6	64.2
	読むこと	67.3	62.2	61.5
観点	知識・技能	76.1	70.2	71.1
	思考・判断・表現	71.5	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	77.0	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

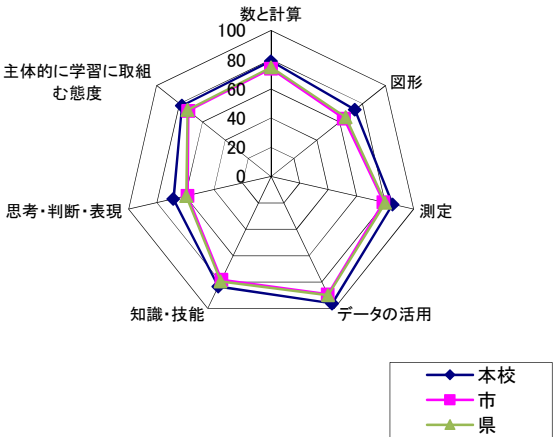
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○漢字の読み書きについては、県の平均正答率を上回っており、概ね定着していると言える。 ●主語と述語についての問題では、校内正答率は66%で県の平均正答率を下回っている。	・漢字の読み書きについては、新出漢字だけでなく既習の漢字も繰り返し復習することで、定着を図る。 ・文章の構成を理解できるよう、物語文の学習において主語と述語を確かめるようにする。
情報の扱い方に関する事項	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○国語辞典の使い方に関する問題では、県の平均正答率を13ポイント上回っており、概ね定着していると言える。 ○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県の平均正答率を10ポイント上回っている。	・国語辞典や漢字辞典を繰り返し活用し、使い方の定着を図る。 ・必要な情報を取捨選択し、自分の考えが述べられるよう、授業の中で支援していく。
我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○漢字のへんやつくりについての問題では、県の平均正答率を5ポイント上回っている。	・漢字のへんやつくりについては、単元学習だけでなく、新出漢字の学習の際にも確認をし、繰り返し復習することで、さらなる定着を図る。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、県の平均正答率を15ポイント上回っており、自分の考えを明確に記述する力が伸びてきている。 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる問題では、県の平均正答率を16ポイント上回っている。	・話し合いの機会を増やし、話すこと・聞くことのスキルを高められるよう指導する。 ・司会者としての役割を理解させ、発言者の意図をとらえながら聞き、他者の考えと比べながら考えをまとめられるよう支援する。
書くこと	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、県の平均正答率を6ポイント上回っている。 ○自分の考えを明確にして文章を書く問題では、県の平均正答率を11ポイント上回っている。	・文字数や段落構成を指定した文章を書く活動を意識的に取り入れる。 ・自分の考えを文章で表現したり書いた文章を友達と互いに読み合ったりする活動を通して、児童同士が助言し合うことにより、よりよい文章を書こうとする意欲を高める。 ・文章を書き始める前に、文章全体の構成を考える指導を行う。
読むこと	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○説明文の叙述を基に文章の内容をとらえる問題については、校内正答率は96%で、県の平均正答率を5ポイント上回っている。 ●物語文の叙述を基に文章をとらえる問題については、県の平均正答率を15ポイント上回っているが、正答率は37ポイントと低く、課題が見られる。	・物語文の学習では、登場人物の気持ちの変化や叙述についての読み取りを丁寧に取り扱い、考えを深め合う時間を設ける。 ・物語や説明文指導の際には、段落の関係性にも注意して指導を行う。

宇都宮市立錦小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.0	73.8	74.8
	図形	73.3	63.7	65.3
	測定	85.2	78.9	80.1
	データの活用	96.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	83.4	78.3	79.5
	思考・判断・表現	68.5	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	78.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

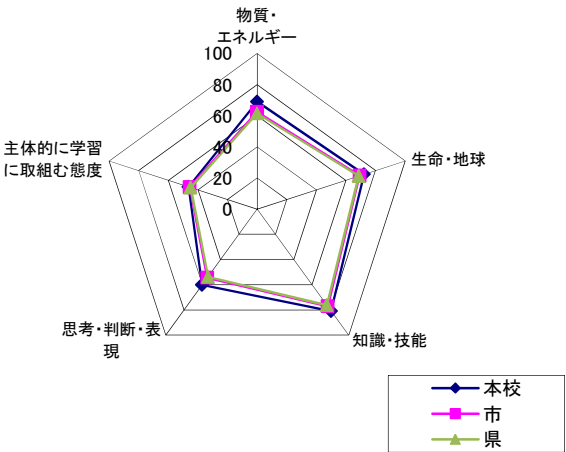
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○分数の理解や4桁の数のくり下がりのある計算については県の平均正答率を10ポイント上回っている。 ○分からない値を□として加法や乗法の式に表す問題についても、県の平均正答率を同じく10ポイント上回っている。 ●数の相対的な大きさについての理解については、県の平均正答率よりも約5ポイント下回っており、数の概念についての定義を確認する必要がある。	・家庭学習や朝の学習の時間において繰り返し復習問題に取り組むようにする。また、AIDリルを活用することで効果的に復習できるようにし、前学年の学習内容が未定着の児童の習熟を図る。 ・数の概念について豊かな感覚を養うため、学習指導や教材の工夫・改善を図る。さらに、授業では自分の考えを深める十分な時間の確保と他の友達の考えに触れる場を設け、思考力を育てていきたい。
図形	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○コンパスの使い方についての理解は、県の平均正答率を8ポイント上回っている。 ●円の中心と円周の2点で結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由の記述については、県の平均正答率を3ポイント上回っているものの、正答率が20ポイントを下回っている。 ●二等辺三角形の作図については、県の平均正答率とほぼ同じである。	・円の定義について、機会を見つけて確認を繰り返し行うとともに、練習問題に取り組ませ、理解の定着を図る。 ・道具の操作性を高めるため作図の機会を増やし慣れさせ、引き続き指導することで、さらなる定着を図りたい。
測定	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っているものもあるが、下回っているものもある。 ○はかりの目盛りの読み方を問う問題では、県の平均正答率を5ポイント上回り、身近にあるものの重さを推測して、適切な単位を使って表す問題では、県の平均正答率を10ポイント以上、上回っている。 ●二つの時刻の間の時間を求める問題では、県の平均正答率を3ポイント下回っている。	・長さ・重さについて理解している児童が多い。今後も、物の重さや長さを計測する活動を設定する。 ・単位の意味について正しく理解できるよう指導していく。 ・時刻については、他の項目に比べると理解度を低いため、学習指導や学習内容を工夫し、説明ができるようにしたり復習を重ねたりする必要がある。
データの活用	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○棒グラフの1目盛りの大きさを求める問題では、県の平均正答率を8ポイント上回っている。 ●棒グラフを正しく読み取る問題では、県の平均正答率を8ポイント下回っている。	・グラフの学習では作成だけでなく、読み取りをする場を設定していく。 ・他教科との関連を図り、資料として棒グラフが提示されてる場合には、目盛りを正しく読んだりグラフから読み取れることを発表したりする場を設ける。様々なデータに触れることで繰り返し復習できるようにする。

宇都宮市立錦小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.0	62.5	61.5
	生命・地球	72.2	69.2	68.6
観点	知識・技能	81.0	77.2	76.3
	思考・判断・表現	60.2	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	46.3	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○「光のせいしつ」で、水を入れたペットボトルが光を集めたことを虫眼鏡に応用する問題の正答率は63%で県の正答率を14.2ポイント上回っている。 ○「音のせいしつ」で、糸電話の音の伝わり方から、糸をつまんだ箇所を答える問題の正答率は87%と、県の正答率を17ポイント上回っている。 ○「風やゴムのはたらき」で、風の強さと車の動く距離を推測する問題の正答率は98.1%で県の正答率を10ポイント上回っている。 ○「電気の通り道」で、電気を通すものと通さないものとを区別する問題の正答率は81.5%で県の正答率を9.8ポイント上回っている。 ●「じしゃくのせいしつ」で、鉄くぎがどんな磁石になるのか問う問題の正答率は40.7%で、県の正答率を2.4ポイント下回っている。	・磁力を調べる際に、鉄粉を用いたり、映像を見せたりするなど、磁石の性質を可視化することで児童の理解につなげるようにする。 ・実験を行う際に、児童全員が用具に触れることができるように授業を行い、実験用具の正しい使い方を定着できるようにする。 ・実験後のまとめについて、全体で結果を振り返る時間を取ったり、児童自身の言葉でまとめたりすることを通して、理解を深め、定着を図るようにする。
生命・地球	○「身近なしぜんのかんさつ」で、記録カードの内容をもとに、共通点・差異点を見出す問題の正答率は90.7%で、県の正答率を9ポイント上回っている。 ○「太陽と地面のようす」で、温度の変わり方を場所ごとに比較する問題の正答率は87%で、9.6ポイント上回っている。 ●「植物の育ち」で、ホウセンカの子葉を選択する問題の正答率は85.2%で、県の正答率を1.2ポイント下回っている。 ●「こん虫の育ち方」で、完全変態と不完全変態の昆虫を区別する問題の正答率は61.1%で、県の正答率を5.2ポイント下回っている。	・植物や昆虫の育ち方について、実物や映像を見ながら確認し、育ち方の規則性が定着できるようにする。 ・虫眼鏡の正しい使い方を復習し、全員が理解・定着できるようにする。

宇都宮市立錦小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習について】

○「家で、学校の宿題をしている」についての肯定的回答の割合は96.3%で県の肯定的回答より1.7ポイント高い。課題にしっかりと取り組んでいる児童が多い。

○「一か月に何冊くらい本を読みますか」について、5～11冊以上が72.2%で県の49.3%を22.9ポイント上回る。家読など継続して行っている効果もあると考えられる。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合は、77.8%で県の割合を5.5ポイント上回っている。教師に対し気軽に聞ける雰囲気を作り、さらに学習に対する意欲の向上につながるようにしたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師もふくむ)」の30分未満の割合は、26%で県の回答を11ポイント上回るので、学習する時間を確保して計画的に学習を進められるよう家庭と協力して指導していく必要がある。

●「家で学校の授業の予習をしている」の肯定的回答の割合は、37%で県を18.4ポイント下回る。予習に取り組めるよう指導していきたい。

【生活について】

○「自分にはよいところがあると思う」についての肯定的回答の割合は、92.6%で県の肯定的割合より13ポイント高い。学校生活や家庭でできるようになったことや努力していることを認めて称賛し、さらに自信がもてるようにする。

○「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答の割合は、98.2%と高く県の肯定的割合を11.6ポイント上回っている。

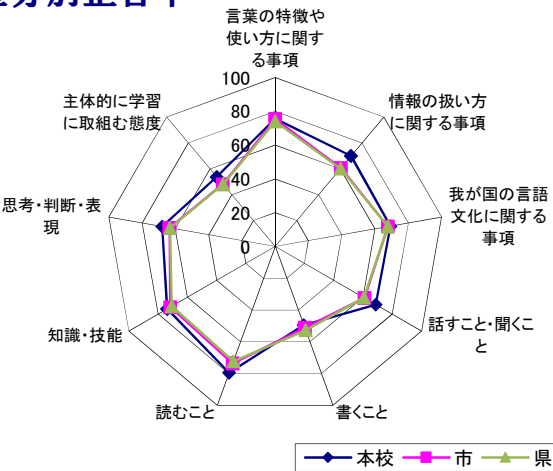
○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」の肯定的割合は、92.6%で県を8.5ポイント上回っている。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」についての肯定的回答は70.3%で県の割合を8.6ポイント下回る。時事問題にも興味をもてるよう家庭と協力して指導していきたい。

宇都宮市立錦小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.6	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	69.9	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	69.2	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	68.8	61.0	60.7
	書くこと	49.5	51.2	52.8
	読むこと	79.5	73.7	72.4
観点	知識・技能	73.9	71.7	70.6
	思考・判断・表現	67.9	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	53.8	48.2	48.1



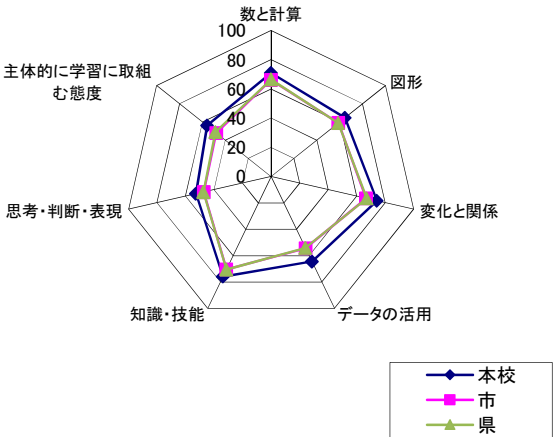
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・平均正答率は県や市の平均正答率をやや上回っている。 ○漢字の読み書きでは、ほとんどの問題で県の平均正答率と同等か上回っており、概ね定着している。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、正答率が42.3%であり、これは県の平均正答率より10.7ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習において、新出漢字を覚えるだけでなく、既習の漢字を使いながら文章を書く練習をするなど、今後も定着を図っていきたい。 ・感想文や説明文などを書く際には、適切に段落が分けられるように、作文用紙を活用しながら指導する。併せて段落を区切る意味なども指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	・平均正答率は県や市の平均正答率を上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、平均正答率が80.8%であり、県の平均正答率を16.6ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方の問題では、県の平均正答率を上回っており、使い方がきちんと身に付いていると考えられる。	・今後も漢字辞典や国語辞典などを活用しながら、調べ学習を授業の中で取り入れていく。 ・本やインターネットの情報などから、文章をまとめる際に、適切な情報を選択し、情報と情報を関連付けながら、自分の考えが述べられるように指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	・平均正答率は県や市の平均正答率を上回っている。 ○ことわざの問題では、県の平均正答率より1.4ポイント上回っている。	・家庭学習の中でことわざや慣用句などを調べる学習を奨励し、興味をもちながら自ら覚えようとする態度の育成を図る。 ・司書教諭と連携を図りながら、ことわざや四字熟語などに触れる機会を設け、児童の語彙力を高めていく。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は県や市の平均正答率を上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、全ての問題において、県の平均正答率を上回っている。特に意見の相違点に着目して、考えをまとめる問題では、県の正答率を24.7ポイント上回った。	・国語や学級活動の時間などを活用し、話し合う機会を設け、自分の立場を明確にしながら話したり聞いたりする力を高めていく。 ・普段の生活から話し方、聞き方の指導を行い、よりよいコミュニケーションを図れるようにしていく。
書くこと	・平均正答率は県や市の平均正答率を下回っている。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、県の平均正答率をやや上回った。 ●指定された長さで文章を書くこと、事実を伝える文章を書くこと、事実と自分の考えを書くことのそれぞれの問題で、県の平均正答率を下回った。特に	・授業の中で自分の考えをまとめながら書く活動を積極的に取り入れていく。 ・書いた文章を友達同士で見せ合いながら、より相手に伝わりやすい文章にするための工夫を見付けるなど、主体的に活動できるようにしていく。
読むこと	・平均正答率は県や市の平均正答率を上回っている。 ○物語の内容を読み取り、文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題では、平均正答率が98.1%と県の平均を大きく上回った。 ●物語の登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題では、平均正答率は県の平均を上回っているが、正答率が46.2%と低い結果であった。	・物語文の学習では、人物・時・場所に注目し、登場人物の心情の変化が起きる場面などを適切に捉えることができるよう、児童同士で話し合う機会を設けていく。 ・説明文の学習では、文章を段落ごとに分け、どのような構成で成り立っているのか図で示したり、要旨をまとめたりすることで、筆者が述べたいことの中心が捉えられるようにしていく。

宇都宮市立錦小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.9	66.1	66.4
	図形	64.6	58.9	58.8
	変化と関係	74.2	66.6	67.0
	データの活用	64.4	54.4	54.2
観点	知識・技能	75.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	52.7	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	56.0	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

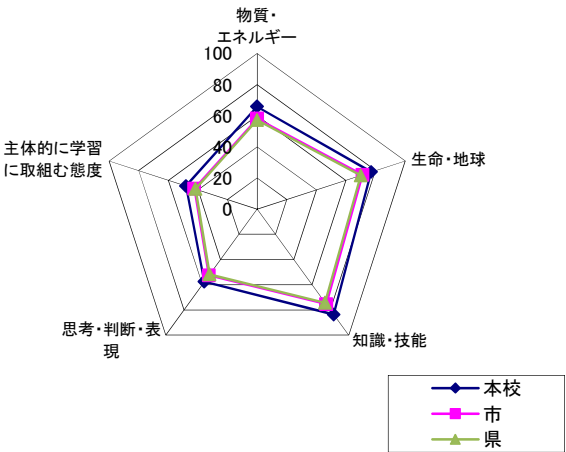
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	- 平均正答率は、県や市の正答率を上回っている。 ○与えられた分数を数直線上に示す問題や小数を10倍した数を求める問題では、正答率が95%を超えている。 ●概数に対応する数の範囲を問う問題では、正答率が50%で、県の平均正答率を7.4ポイント下回った。 ●小数の計算については、小数第二位÷整数の計算問題の正答率が75%で、県の正答率よりも10.7ポイント高かったものの、小数第一位×整数の計算では、正答率が67.3%で、県の正答率よりも8.1ポイント低かった。	- 概数の概念について理解を深められるよう、数直線を利用するなど指導法や教材の工夫・改善を図る。さらに授業の中では、自分の考えをしっかりとった上で、友達と意見を出し合い考えを深める時間を確保していく。 - 家庭学習や朝の学習の時間を活用して、繰り返し計算問題に取り組むようにし、計算ミスを減らしていく。
図形	- 平均正答率は、県や市の正答率を上回っている。 ○分度器の中に示された角の大きさを読み取る問題では、90.4%という高い正答率だった。 ●教室のおよその面積を選ぶ問題は正答率が40.4%、面積の単位の関係を説明する問題では26.9%と正答率が低く、県の平均正答率をどちらも上回っているものの課題がある。	- 分度器やコンパス、三角定規などを用いて作図する機会を意図的に増やし、正しく作図したり、図形の性質を理解したりできるよう指導を継続していく。 - 面積の問題では、実際に長さを図って面積を求めるような体験活動を増やし、広さの感覚を身に付けられるようにするとともに、単位については繰り返し復習していく。
変化と関係	- 平均正答率は、県や市の正答率をやや上回っている。 ○図を使って、基準量を求めるための除法の立式では、正答率が80.8%で県の正答率を13.7ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題は、正答率が53.8%で県の平均より上回っているものがある。	- 学習活動において、2つの数量の関係に着目して、それらの数量について児童が進んで「考えたい」と思うような場面を設定する。 - 伴って変わる2つの量の規則性に気付くようにし、表や式、グラフ等と関連付けながら考える活動を大切にしていく。
データの活用	- 平均正答率は、県や市の正答率を上回っている。 ○2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では82.7%で、県の正答率より17.3ポイント高かった。 ●二次元表を用いて図書館利用者数の求め方を説明する問題では、正答率が23.1%と低く、県の正答率を上回ったものの、課題が見られる。	- 表やグラフを用いた様々な練習問題に取り組みせ、答えを導くために必要な部分の見付け方やその手順を説明する機会を多く設け、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 - 表やグラフを分析する際には、異なる観点から多面的に捉え直したり、結論に矛盾がないか注意深く考察したりする等、問題解決の過程を意識できるよう指導する。

宇都宮市立錦小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.8	58.1	57.2
	生命・地球	77.0	71.1	70.0
観点	知識・技能	83.7	75.5	74.4
	思考・判断・表現	57.7	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	48.1	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は、県や市より上回った。 ○乾電池の向きを入れ替えたときの車の進む向きを問う問題では、正答率が86.5%で、県の正答率より24.5ポイント上回った。 ○水を加熱する時に沸騰石を入れる理由を問う問題の正答率は94.2%で、県の正答率より16.9ポイント上回った。 ○温度による空気の体積の変わり方についての問題では、正答率が96.2%と高く、県より13.5ポイント上回った。 ●水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに、水の量のちがいと沸騰する温度を関係付けて記述する問題では、正答率が36.5%で、県より12.9ポイント上回ったものの正答率が低かった。	・実験や観察を大切に学習を今後も継続しつつ、実験で得られたデータの処理が適切にできるよう、データを正しく読み取る指導をする。 ・実験・観察から得られた自分の考えを表出できるよう、データをもとに、事象が変化する理由を書いたりまとめる活動を行う。
生命・地球	・平均正答率は、県や市より上回った。 ○満月の1日の動きについて問う問題では、正答率が96.2%で、県より19.9ポイント上回った。 ○「ヘチマは気温が下がると種子を残す」、「水の流れ方をもとに、ビー玉がどのように動くかを推測する」についての2問は、正答率が100%だった。 ●記録温度計の記録から、天気の変化を推測する問題の正答率は23.1%で、県の正答率より8.3ポイント下回った。	・4年生の学習で、気温のデータから天気がどのように変わったかを推測する学習をしている。しかし、正答率が低かったことから、データから分かることを推測する力が身に付いていないと考えられる。5年生の「雲と天気の変化」の学習で、気温、降水量、雲の動きなど、いろいろなデータや条件を組み合わせて天気を推測することを学習し、グラフから分かることを読み取る力を習得できるように指導していく。

宇都宮市立錦小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習について】
○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の質問では、「10分以上、30分より少ない」と答えた割合が36.5%で、県よりも12ポイント高く、「30分以上、1時間より少ない」と答えた割合は28.8%と、これも県よりも6.1ポイント高かった。また、「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問では、「3～4さつ」と答えた割合が40.4%で県より15.7ポイント、「5～10さつ」と答えた割合が28.8%で県より4.9ポイント高かった。朝の読書タイム、読書週間、家読などを継続して取り組んでいる成果が見られ、読書習慣が身に付き、読書に親しんでいる様子が見える。
○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的割合は、94.2%で県より12.4ポイント高く、「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」の肯定的割合は91.7%で県より8.2ポイント高かった。また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的割合も県より6.2ポイント高かった。学習に対して、興味関心が高く、難しい問題に対しても意欲をもっていることから、学習課題の提示方法、課題追究の工夫等、学習への興味関心をさらに高めつつ、主体的に取り組むよう支援していきたい。
●「家で、自分で計画を立てて勉強している」についての肯定的割合は、46.2%で、県より26.1ポイント低かった。また、「家で、学校の授業の予習をしている」は20.4ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」は24.4ポイント、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」は31ポイント、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は18.1ポイントであり、それぞれ県の肯定的割合より低かった。学校の宿題については、きちんと取り組んでいるが、自分で学習することを考えて、自主的に取り組む習慣が身に付いていないと考えられる。本校で配布している「家庭学習の進め方」をもとに、自主学習への取り組み方について家庭と連携しながら指導し、家庭学習の定着を図っていく。
【生活について】
○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」の肯定的割合は、96.2%で県より10.8ポイント高く、「家の人としてやることについて話すことがある」の肯定的割合は、78.8%で県より14.3ポイント高かった。そして、「自分は家族の大切な一員だ」と思うの肯定的割合は、100%だった。このことから、家族と話す時間を大切に、学校での出来事、将来のこと等を話せている児童が多いことがうかがえる。
●「時間を上手に使うことを、心がけている」の肯定的割合は、71.1%で県より6.8ポイント低かった。学活や道徳、家庭科の学習で、自分の生活を振り返り、時間の使い方について見直す機会を設けたい。

宇都宮市立錦小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	自分の考えを書く学習を意識的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。また、その基本となる漢字やかなの正しい表記や文法なども併せて指導する。	指定された長さで文章を書くことや、2段落構成で書くことについて、個人差が大きい。特に、自分の考えを書くことについて課題が見られる。
基礎基本の確実な定着	漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったり、AIDリルを活用したりして、学習内容の確実な定着を図る。また、体験的な活動を行ったり、具体物を活用したりして、思考力の育成を目指す。	漢字の読み書きに関しては、市や県の平均正答率を上回っており、概ね定着していると言えるが、文法の問題に関して定着に個人差がある。計算に関しては、5年生の小数において、課題が見られている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
多くの情報の中から必要な情報を選び出して解答する問題で、どの情報をもとに考えればよいのかが分からず、正答率の下がっているものがあつた。	図や表、グラフ等の正しい読み取りの指導	様々な情報に触れる機会を増やすと共に、情報を整理する過程において、取捨選択ができるようにする。